

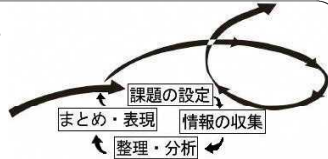
# 総合的な学習の時間

## 見方・考え方を働かせながら、探究的な学習を進める授業づくり

### 授業づくりのポイント ※④のア～ウは指導と評価の例と対応

#### 探究的な学習の過程

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現



探究的な学習の過程では、問題解決的な活動を発展的に繰り返します。この過程の中では、①～④がいつも順序通り繰り返されるわけではありません。児童生徒の探究の状況によって順番が前後する場合や、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあります。

#### ④ まとめ・表現

自分の考えをまとめたり、それを他者に伝えたりする活動を行うことで、学習の質が高まります。表面的ではない深まりのある探究的な学習を実現することができるよう、次の点に配慮します。

- ア 相手意識や目的意識を明確にする。
- イ 情報を再構成し、自分の考えや新たな課題を自覚できるようにする。
- ウ 伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるようにする。

※探究的な学習の過程①～③についての授業づくりのポイントについては、『令和4年度南の要覧』p26参照▶

#### 【総合的な学習の時間の評価について】

児童生徒の学習状況を評価する際は、その信頼性を高めるためにも、多様な評価と過程の評価を意識して行い、その結果を指導や学習の改善に生かすことが重要です。内容や時間のまとまりを見通して計画的に指導に生かす評価と記録に残す評価を行うために、学習活動や学ぶ内容に応じ、どの場面で、誰がどのように評価するかを明確にしておく必要があります。

### 探究的な学習の過程のまとめ・表現の場面における指導と評価の例

#### 中学校第3学年 単元名 「みんなでつくる持続可能で魅力的なふるさと」

##### ◇単元の目標

ふるさとのよさについて考えたり、地域の活性化に向けたプランを提案したりする活動を通して、ふるさとのよさや課題と自分たちの生活との関わりを理解し、持続可能なふるさとの在り方と自分の将来を結び付けて考える。学んだことを生かしながら、ふるさとの活性化のために自分ができることを考え行動しようとする。 秋田県SDGsオリジナルロゴマーク→



AKITA SDGs

##### ◇単元の評価規準（【思考・判断・表現】の一部）

持続可能なふるさとにするための自分の考えを論理的にまとめ、目的や相手に応じて内容を構成するとともに、適切な方法を選択して表現している。

自校で育成を目指す資質・能力が身に付いた生徒の姿を具体的に設定し、教師間で共有しておくことが大切です。

##### <小単元1> ふるさとの現状を捉えよう

##### <小単元2> 課題解決のためのふるさと活性化プランを考え、提案しよう

- ① 課題の設定
  - ・ふるさとの課題の解決に向け、見通しをもつ。
- ② 情報の収集
  - ・解決策立案に向け、情報を収集する。
- ③ 整理・分析
  - ・実現可能か等の視点から、情報を分析し、取組内容を整理する。
- ④ まとめ・表現
  - ・自分たちの考えをまとめ、行政関係者等の方々に向け発表する。
  - ・取組を振り返り、レポートをまとめる。

##### <小単元3> 未来のまちづくりと自分の生き方を考えよう

#### 【伝える内容や方法を検討する場面】の指導

- T：市役所の市民課と観光協会の方々に、ふるさと活性化プランを提案します。興味をもって聞いてもらうためにどのような内容にしたらよいと思いますか。
- S1：「若い世代と年配の世代が協力してできる活動」をふるさと活性化プランとして提案したいです。
- S2：私たちの総合的な学習の時間の取組が、最終的には持続可能なふるさとを目指し、ふるさとと自分の未来を考える活動であることも伝えたいです。
- T：では、発表方法を考えます。これまでの発表経験を踏まえて、どのようにしたら、自分たちの考えを効果的に伝えられるか考えましょう。
- S3：学校祭で行ったようにプレゼンテーションソフトを使って紹介したらどうでしょうか。
- S4：社会の授業の発表のときに行ったポスターセッションはどうでしょう。聞いてくれる方に、より考えが伝わると思います。
- T：お互いの方法のよさを生かすことはできませんか。
- S3：全体の活動をプレゼンテーションで紹介し、その後、グループごとにポスターセッションで発表すれば、より相手に考えが伝わって効果的だと思います。
- S1：個人で調べたことをまとめた新聞を配ってもよいと思います。

これまでの経験や整理・分析した情報などを引き出します。伝える相手を意識したり、情報を再構成したりすることで、発表への見通しをもつことができようになります。 **ア**

既習の活動や各教科等の学習での発表を想起させ、どの方法で伝えるか、自分の考えを整理できるようにすることが大切です。 **イウ**

児童生徒が1人1台端末の効果的な活用方法や目的に応じた発表方法を検討することで、より相手を意識した発表につながります。 **ウ**

#### 【振り返りの場面】視点の提示例と生徒の記載例

- T：振り返りは、話合いで自分の考えが広がったり、深まったりしたことと、その理由を書きましょう。
- S3の記載：話合いでのS4さんの意見を参考にして、より効果的な方法を考えることができた。発表では、考えが伝わるようにすることや、聞く人を意識することが大事だと感じた。

児童生徒が振り返りを行う際は、教師が評価計画を基に表現させたいことに応じた視点を示すことで、学びや変容を的確に評価できるようになります。